



視察した宮古市役所新庁舎

## 宮古市新庁舎を視察

議員全員で構成する「新庁舎建設調査特別委員会」では、岩手県宮古市を視察しました。

宮古市議会では、東日本大震災後、「宮古市復興対策特別委員会」を設置し、被災者、地域社会の再建に必要な施策の構築、災害に強いまちづくりに必要な施策の構築の二大方針を掲げ、「宮古市東日本大震災復興計画への提言」をまとめ市へ提出しました。

### 議会からの視点や

#### 市民の声を提言

そのなかで、市本庁舎の津波浸水区域内からの移転や、市民の利便性、交通アクセスや行政機能の集約化、財政負担軽減策として国への財政支援や合併特例債利用可能な期

### 新庁舎建設調査 特別委員会

7月22日

間内を目標にするよう提言されました。

新本庁舎は昨年10月1日に本庁舎・保健センター・市民交流センターの複合施設「イースピアみやこ」として竣



危機対策室で説明を受ける委員

工・開所され、宮古駅周辺の中心市街地拠点施設としての発展が期待されています。

視察では、新庁舎建設事業への議会の関わり方として、全員協議会を25回、総務常任委員会を11回開催したなか

で、候補地選定や事業手法、議会棟（フロア）のコンセプトや機能などの議論してきた経過について宮古市側からの説明をいただき、その後、各委員から質疑が交わされました。

本市ではいま、新庁舎建設基本構想策定に向けて有識者会議での議論が継続中でありま

す。本特別委員会としても、議会からの視点や市民の声を拝聴しながら、引き続き調査・研究を進めていきます。

## 東日本大震災調査特別委員会から

東日本大震災調査特別委員会では、震災による被害の早期復旧及び復興に関する調査を行うとともに、市議会と当局との情報の共有化をより一層深めるため、定例化し開催しています。

### 〔令和元年7月11日〕

- (1) 気仙沼市震災復興計画の実施状況（平成30年度下半期）について
- (2) 災害公営住宅の家賃状況・入居者の世帯構成及び高齢化率について

### 〔令和元年8月9日〕

- (1) 松崎片浜地区被災市街地復興土地区画整理事業に係る施行期間の見直しについて
- (2) 復興事業を検証するための津波シミュレーションについて

### 〔令和元年9月6日〕

- (1) 株みらい造船新工場の完成について
- (2) 令和元年における海水浴場の入込数について

### 災害危険区域は変更せず

8月の東日本大震災調査特別委員会では、復興事業を検証するための津波シミュレーションについて報告がありました。

災害危険区域を指定した平成24年7月以降、防潮堤計画の見直し等により、当初津波シミュレーションと設定の異なる部分が生じていることから、復興事業に大きな齟齬が生じていないかを検証する目的で、再シミュレーションを実施。その結果、「復興事業に影響を及ぼすような大きな変化は無かったことから、現行の災害危険区域を維持する」との方針が示されました。

菅原市長は「シミュレーションは不確実性をはらんでいるが、それを前提に復興を進めるしかなかった。線を引かないと被災者の住宅再建の判断が遅れてしまった」と理解を求めました。再シミュレーション結果は、混乱防止等を理由に示されませんでした。

ここを詳しく